

教育に新聞を

毎週火曜掲載

実践

コラム

力試し

現場



8

国際学力到達度調査(PISA)で、日本の15歳の「読解力」が15位に続落したとの記事が昨年12月、全国の新聞の紙面に並びました。

その理由として、コンピュータ操作の不慣れや長文を読まない習慣などが挙げられています。しかし私は、日本の国語で主に育まれてきた読解力とPISAの読解力とに、大きな違いがあるからだと考えます。

国語の教材となる文章は「文学的文章」と「説明的(論理的)文章」だと、先生方は知っています。小学校で言えば物語文と説明文です。しかし、どちらかと言えば、先生方は文学的文章の指導に多くの時間を割

いて、説明的文章を軽く扱っています。結果として、感性豊かな文学の読み取りはできても論理的な文章の読み取りが課題となることは想像に難くありません。

他にも指導すべき文章があります。「実用的な文章」です。例えば、報道や広報などの文章や、会議や裁判などの記録や報告書などの文章、法律の条文や宣伝の文章などです。学習指導要領には、これも記載されていますが、さらに軽く扱われているのが現状です。

実は、まだあるのです。それは文章ではない「資料」(非連続型テキスト)の読み取りです。具体的には、写真や図・表、グラフ、地図などです。国語では資料を総合的に読み解く読解力も求められているのです。もちろん、これも学習指導要領に記されているのです。

せきべち・しゅうじさん  
1965年東京生まれ。  
東京学芸大を卒業後、東京都立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。

読解力身に付ける「30分」



イラスト さとうあけみ

国立情報学研究所の新井紀子教授は、著書『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社2018年)で、日本子どもたちの読解力が危機的な状況であると警鐘を鳴らしています。その根拠となった調査の問題文は「実用的な文章」と「非連続型テキスト」で構成されていますから、結果は言わずもがなです。

そこで、1日30分間、子どもに本や新聞を読ませましょう。あえて「新聞」と書いたのは、紙面に並ぶさ

まざまな実用的な文章や資料に、日常的に触れておくことが重要だからです。それが今、求められている読解力を育てることになるのです。

「1日30分」は、365日で182・5時間。なんと小学校高学年、中学校1・2年の国語の総授業時間をはるかに超えるのです。

「継続は力なり」。1日15分新聞を読めば、結果はおのずと現れます。

(日本新聞協会N-EEコーディネーター 関口修司)  
次回回は3月3日